

社会福祉法人楽山会 第二椎の実子供の家
平成25年度 事業報告

新たな気持ちで迎えた2年目、子どもや保護者のさらなる期待と希望を感じながら、職員一同が、これまで支援して下さった関係者や周囲の方々に感謝の気持ちを持って保育に当たってきた。

また「幼児の躰でその一生が決まる」という理念のもと、保育園が子ども達にとって楽しく遊び、健やかな成長を促す環境、保護者が安心して子どもを預けることのできる場所として確立できるよう努めた。

今年度は、子ども達の健康な心と体作りを目指し、外部から体操の講師を迎え指導をお願いした。充実した活動内容で子ども達には良い刺激となったことにより、保護者からの喜びの感想を多くいただいた。

地域の支援においては、地域の保育ニーズに積極的に応えたため、一時預かりの利用者が昨年度より増加し、喜んで利用してもらえたことは大きな成果であった。

平成25年度の重点目標及び主な実績は、以下の通りである。

平成25年度重点目標	
I 安全安心保育	IV 職員の人材育成と資質の向上
II 子どもの発達支援と保育環境の充実	V 地域・関係機関との連携
III 保護者との連携	

I 安全安心保育

子どもの生命の保持と健やかで生活の安全が保障されている環境でありながら、誤飲という大きな事故を起こしてしまった。子どもの心身の成長から十分に想定された事故で、危機意識に欠ける内容であった。当事者である園児とその家族、また園に通って来られる他の園児やその家族、開設当初から支援して下さった関係者や周囲の方々に心よりお詫びを申し上げた。

園として事故が起きたことについて、運営者会議等で協議し、緊張感を持って子どもの行動に常に気を配り、お互いが気付いたことについては、声を掛け合い確認するなど、危機意識を高め、事故の再発防止に全力で取り組みをしてきた。

II 子どもの発達支援と保育環境の充実

主任を中心に、クラスの話し合いを密にしたことによって、子どもの育ちに合った環境を整えようとする積極的な職員の姿が有り、子どもの気持ちに寄り添う保育を行う事ができた。

また、今年度より始めた幼児クラスの専門講師の指導による体操は、体を動かす楽しさだけではなく、努力をするという気持ちの育ちも見えた。運動会では、日頃の子ども達の頑張りを披露することができ、保護者から「感動した」という感想をいただいた。

III 保護者との連携

おたよりやホームページを利用し、園での子どもの姿が見える様に伝えていくことを心掛けた。

保育参観、個人面談では、家庭での子どもの様子や園での子どもの生活をお互いに確認し合うことができた。また保護者参加の行事として、新たにクリスマス会を行った。子ども達の発表を通して、年齢別の育ちが見え、普段は見られない子どもの姿に「成長を感じた」との感想を多くいただいた。

第三者評価の利用者調査を実施し、利用者のニーズの把握と保育の質の向上、運営上の改善に努めた。

IV 職員の人材育成と資質の向上

昨年に引き続き、振り返りノートの活用と、個別でOJTを行い職務遂行を通して必要な知識や技能、取り組む姿勢などの指導を行った。

その結果、職員間の信頼関係が深まり、組織の中の一人としての自覚が育っていった。

また、外部研修や椎の実子供の家との合同研修等に参加し、お互いに意見を交わし、学び合う中で保育の質の向上を目指した。

V 地域・関係機関との連携

地域に向けて広く広報活動したこともあり、一時預かりの利用数が大きく増えた。リピーターも多く申込み者が連日定数以上のため、お断わりすることもあった。地域性や地理的な利便性が評価され、口コミでの新規の利用者も多くなった。

地域、近隣の方とも良好な関係が築かれ、地域の行事に幼児クラスの作品を展示させてもらったり、運動会では近隣の方から励ましのお手紙をいただいたりと、様々な人と接する良い機会に恵まれた。また、各関係機関との連携を図ることにより、支援が必要な家庭や子どもに対して適切な援助ができただけでなく、様々な事例についての指導を受けることができ職員の資質向上へと繋がった。